

ふたばこども園

園便り 10月号

# ふたばっ子

平成28年10月1日発行

文責 園長 納富博文



こすもす

## 運動会！天気になぁ～れ

いちょう並木や街路樹が少しずつ色づき始め、秋の訪れが目に見えるようになってきました。先般の園舎改築に係る説明会には、多数御参加いただきありがとうございました。

さて、9月半ばより園庭では運動会に向けての練習や準備が始まり、賑やかさが増してきました。入場行進やかっこなど元気に練習ができています。また、年長組は伝統のバルーンの演技に磨きをかけています。10月8日（土）どんなかわいい姿を見せてくれるのかわくわくします。応援のほどよろしくお祈いします。

なお、園より別紙にて運動会の御案内を配布しています。どうぞルールを守って、お互いが楽しくなる環境を作っていただくよう、保護者の皆様にもお祈いいたします。

開門は午前8時です。（厳守します。）どうか良い天気になりますように！



## 稲刈り体験（年長組）

6月に植えた稲が立派に実り、26日（月）に稲刈りの体験をしました。稲刈りをする頃には、残暑が厳しい秋晴れの天気になり、子どもたちは汗をいっぱいかきながら、短大のお姉ちゃん先生や農業高校の生徒さんが刈り取った稲の束をコンバインまで運びました。

また、今回もポニーやプードル、うさぎなどとのふれあいを体験し、暑かったけど笑顔いっぱいの日でした。

稲刈りの様子は、NHKとFBSで放映されました。また、28日の佐賀新聞にも掲載されました。（裏面）



## 園舎引越作業に御協力ください

説明会でお願いしましたとおり、10月21日（金）～24日（月）は仮園舎への引越作業を行います。特に、22・23日は業者による運搬作業の予定で、園舎内外とも業者の方の出入りや運搬用のトラックなどで混雑し、園児にとっては大変危険な状況が予想されます。

また、21日は引越の荷造り、24日は荷ほどきと教室環境の整備等で、担任も手が離せない状況になります。

そこで、全園児、21日は11:30降園、22・24日は休園（1号は代休）への御協力をお願いしました。御理解と御支援のほどをよろしくお祈いします。

## 園舎お別れイベント

いよいよ現園舎ともあと一か月でお別れです。現園舎は昭和62年に建設され、30年が経ち、卒園児も約3000名を数えます。

そこで、多くの皆様の思い出が詰まった園舎とのお別れイベントを計画しました。10月30日（日）10時から開始です。

園舎へのらくがきや思い出の品持ち帰りなど、イベント内容を工夫しています。現園児、卒園された方、地域の方など多数の御参加をお待ちしています。

なお、多くの方への御紹介をお願いします。拡散希望！

園舎お別れイベント  
「たくさんのありがとうをみんなで！！」  
in  
ふたばこども園  
平成28年10月30日(日) 10:00～12:00 受付9:45～  
会場：佐賀女子短期大学付属ふたばこども園  
TEL 0952-24-7832 FAX 0952-24-7833  
園舎改築に伴い、これまで多くの人の子と遊び、学び、成長した園舎内を別離します。卒業生、そして地域のみなさん、たくさんの方々が会場をお祈いしています。御参加のほどお祈いいたします。

# みんな力合わせ稲刈り

杵藤・伊西

武雄市鹿島市嬉野市杵島郡  
伊万里市藤津郡西松浦郡

佐賀農業高生や佐賀女子短期大の学生が刈った稲穂をいっぱい担いで運ぶ園児。白石町の佐賀農業高校



園児たちと  
高校 短大生

## 3校合同で収穫

白石町  
佐賀市

未就学児と高  
校生、短大生合  
同による稲刈り

科2年生と佐賀市の佐賀女  
子短期大こども学科2年  
生、同短大系列のふたばこ  
ども園年長児の総勢約13

が26日、白石町の佐賀農業  
高であった。同校農業科学

0人が、力を合わせて収穫



を楽しんだ。

高校生と短大生が手刈りした稲を、園児たちがコンバインへ運ぶよう役割分担し、同校実習田のうち約2畝で黄金色の穂を実らせた。「夢しづく」を収穫した。

高校生や短大生が「こっちも持って行ってー」と呼べば、力自慢の子どもたちは「もっと持てるからちようだい」と催促していた。

白石町と同短大が昨年8月に結んだ連携協定を契機に交流が本格化し、今年6月には合同で田植えも体験した。同短大によると、保育や幼児教育を学ぶこども学科の学生にとって、園外活動は目配りや食育を実践的に学ぶ機会になっているという。この日収穫した米

は精米し、子どもたちや短大生に贈られる。

ふたばこども園の女兒(6)は「植えた苗があんなに大きくなるなんてびっくり」と興奮気味。佐賀農業高の堤慎也さん(17)は「こんなににぎやかな稲刈りは初めて。進んで取りに来てくれたから、あつという間に終わった」とほほ笑んだ。



ふたばこども園の子どもたちに刈った稲穂を優しく手渡す佐賀農業高生ら。白石町の佐賀農業高校

佐賀女子短大の永田彩子さん(20)は「こつという手間があつてお米が作られていることを子どもたちも実感してくれたら、食育にもつながると思う」と話していた。

(志垣直哉)